

創造から新天新地へー24 章でたどる神の救済史

2 章 「人類の堕落と救い主の約束」

創世記 3 章

1. はじめに

(1) 序章のアウトライン

- ①聖書 一神の救済史の記録
- ②旧約聖書一神の救済史の進展
- ③新約聖書一神の救済史の成就
- ④新天新地一神の救済史の完成

(2) 1 章では「世界の始まり」について考えた。

- ①天地創造の目的は、神の国の臣民を造り出すことにあった。
- ②創 1：1 をどう受け止めるかで、私たちの人生観・世界観・歴史観が決まる。

(3) 2 章では「人類の堕落と救い主の約束」について考える。

- ①創 3 章に入ると、突然雰囲気が一変する。
- ②ここから人類の歴史に「罪」が入り込む。
- ③「堕落の物語」は、歴史的事実である。
- ④世界に死、苦しみ、破壊が存在する理由がここにある。

この世に悪や悲劇が存在するのはなぜか。

創世記 3 章に示された物語を 3 区分して学ぶと、その理由が分かる。

I. 堕落の過程（1～6 節）

1. 創 3：1

Gen 3:1 さて蛇は、神である【主】が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」

(1) サタンは「蛇」を通して女に語りかける。

- ①サタンは「神の国」に対抗する「悪魔の国」の設立を企んでいる。

2. サタンの誘惑のステップ

- (1) 神のことばを曖昧に解釈する。
- (2) 神のことばを全面的に否定する。
- (3) 神への反抗は良い結果をもたらすと嘘を言う。

3. サタンは、神のようになりたいと思ったために墮落した。

- (1) 人間もまた、同じ理由で墮落した。
- (2) エバは欺かれたが、アダムは、十分な知識を持っていながら罪を犯した。
- (3) 二人は、無垢な性質（神を慕い求めるという性質）を失った。

4. 適用

- (1) 罪は「神のことばの歪曲 → 欲望の刺激 → 意志の選択 → 行為」と進む。
- (2) 私たちも日々「神のことばに立つか、誘惑に従うか」の選択に直面。

II. 墮落の結果：死と断絶（7～19 節）

1. 腰の覆いを作って生殖器を隠した。

- (1) 人間のいのちの源が罪によって汚されたことを示している。

2. 神が園を歩まれると、彼らは身を隠した。

- (1) 罪は「恐れ」と「隠れ」を生む。

3. 言い訳と責任転嫁が生まれた。

- (1) アダムは妻を、妻は蛇を責めた。
 - ① 罪は「関係の断絶」を生む。

4. 神は蛇を呪い、女には痛み、男には労苦を与えた。

- (1) 罪は「死と労苦の世界」をもたらした。

5. 適用：私たちの世界にある苦しみの根源は「罪」にある。

- (1) その問題は、人間の力では解決できない。

III. 救い主の約束：女の子孫

1. 最初の契約（エデン契約）は破棄され、別の契約（アダム契約）が結ばれる。

- (1) アダムは人類の代表としてこの契約を結んでいる。
 - ① この契約の条項は私たちにも適用される。

2. アダム契約は、4つの部分から成っている。

- (1) 蛇に対して呪いが宣言された。
 - ① 蛇はサタンに悪用されたので、動物界全体の中で一番呪われた。
- (2) サタンに対して裁きが宣言された（原福音）。

Gen 3:15 わたしは敵意を、おまえと女の間、／おまえの子孫と女の子孫の間に置く。
／彼はおまえの頭を打ち、／おまえは彼のかかとを打つ。」

- ①サタンと女の間で敵意が置かれる。救い主が女から誕生するから。
- ②「サタンの子孫」（反キリスト）と「女の子孫」（キリスト）の葛藤。
 - * 「彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ」
 - * 十字架の死と復活の預言
- ③女の子孫の系譜は創 4 章から 5 章、そしてアブラハム契約へとつながる。

(3) 女に対して裁きが宣言された。

- ①「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す」
 - * これは命令ではなく、そうなるという宣言である。
- ②墮落以降、夫に反抗し、夫を支配したいと思うようになる。

(4) 男に対して裁きが宣言された。

- ①土地はのろわれ、労働が苦役となる。
- ②肉体的な死が人の生活の中に入り込む。

3. 皮の衣

- (1) 神は、アダムと妻のために皮の衣を作り、それを彼らに着せた。
 - ①この時に殺された動物は、血の犠牲の最初のものである。
- (2) 皮の衣は、いくつかの霊的教訓を教えている。
 - ①神に近づくためには、神ご自身が用意された衣を着る必要がある。
 - ②その衣は、血の犠牲によって得られるものである。
 - ③アダムとエバは、エデンの園から追放される前にこの衣を着せられた。
- (3) 「いのちの木」から取って食べれば、罪を持ったまま永遠に生き続ける。
 - ①その悲惨な状況を避けるために、神は彼らを園から追放される。
 - ②入り口には、ケルビムと「輪を描いて回る炎の剣」（シャカイナ・グローリー）が置かれた。
 - ③この状態は、洪水によってエデンの園が破壊されるまで続く。

4. 適用

- (1) 「義の衣」は、主イエスのいのちの犠牲によって作られた。
- (2) クリスマンになるとは、アダムとのつながりを断ち、信仰によって主イエスとつながることである。
- (3) 主イエスから義の衣を受け取った私たちは、本当に幸いである。

結論：今日の信者への適用

1. みことばの真理の上に人生を築くこと

- (1) 霊的戦いは、解釈学の戦いである。
- (2) 誘惑の始まりは、みことばへの疑いである。

2. 神の国建設への貢献を意識しながら生きること

- (1) 霊的戦いの現実の中で、キリストの勝利に立つ。
- (2) 試練の中にも神の救済計画を読み取ること

3. キリストの義を衣として着る信仰に生きること

- (1) 墮落の場においてすでに救い主が約束された。
- (2) 神の恵みはいつも罪と破壊を上回る。